

平成25年白老町議会総務文教常任委員会会議録

平成25年 8月 9日（金曜日）

開 会 午前10時00分

閉 会 午前10時59分

○会議に付した事件

所管事務調査

1. 白老町小学校適正配置計画（案）について
-

○出席委員（5名）

委員長 小西秀延君

副委員長 山田和子君

委員 吉田和子君

委員 本間広朗君

委員 前田博之君

議長 山本浩平君

○欠席委員（1名）

委員 斎藤征信君

○説明のため出席した者の職氏名（なし）

○職務のため出席した事務局職員

事務局 長 岡村幸男君

主 査 本間弘樹君

◎開会の宣告

○委員長（小西秀延君） ただいまより総務文教常任委員会を開会いたします。

（午前10時00分）

○委員長（小西秀延君） 本日は、白老町小学校適正配置計画（案）について2回目の審議となります。

第1項目、各小学校のアンケートについて皆さんのお手元に別紙として配付させていただいております。前回の委員会のときに皆さんよりどのようなアンケートを各学校に行っているのかということで、その様式を出していただきました。これについてでございますが、前回の会議で担当課からのご説明では、お盆明けに収集したもののまとめをつくって議会のほうに提出したいというご報告を受けております。

なお、議会のほうに提出される前に、各学校にこのようなアンケートになっておりますとPTAのほうにご報告、そしてある程度の打ち合わせを終えてそれ把握した上で議会に報告という形で進んでくるといふふうに聞いておりますので、ご報告させていただきたいと思っております。

これについて、進行上ご質問、ご意見等ございますか。そのような押さえということによろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） それでは、1番目のアンケートについては、皆さんにご報告済みとさせていただきます。

2番目、参考人、各小学校PTA役員の出席を求めるかどうかについてでございます。ただいま1番目のアンケートについてご説明いたしました、お盆明けに各学校のアンケートのまとめが上がってくるということになっております。それ以降になろうかと思っております。PTAのほうも自分の学校のアンケートを把握し、その後参考人としてのご意見をPTAから聴取するか否かについて。前回も若干お話しさせていただきましたが、9月の定例会になるべくであればこの所管事務調査の報告を上げたいと。それ以後、予算づけ等がもう始まってまいりますということで聞いております。ただ、お盆明けにならないとアンケート等のまとめが出ないということで、タイムリミット的には大変厳しい状況になってくるかと思っております。それを踏まえた上で、皆さんから参考人についてのご意見を賜りたいと思っております。

前回ご意見を賜ったときには、各学校に議会が出向いて参考人のご意見を拝聴してはいかがかというご意見も出ておりました。ただ、お盆明けということになりますと、各学校3校に出向くスケジュールができないとは申しませんが、なかなか大変厳しいスケジュールになるというふうに考えております。それを踏まえて。

吉田委員どうぞ。

○委員（吉田和子君） 吉田です。確認したいと思っております。各学校と参考人として懇談することですけれども、これは、白老町の小学校全校、それとも適正配置の該当になっている3校についてやる予定か。委員長がおっしゃったように日程的にはかなり。

全員協議会で説明あった内容等については、全校に赴いてやっています。虎杖小学校まで。ですが、今回その時間的なものも考えると、適正配置の該当になっている学校だけでやっていくのかということが1点。

それから、もう1点は、私前もお話ししたと思うのですが、27年度に予定ということになっています。そうすると、幼稚園、保育所の今の5才、6才くらいまでがなってくるのかなと思ったのですが、その方たちの保育所なり幼稚園の役員の方との懇談は必要ないか。その点確認をお願いしたいと思います。

○委員長（小西秀延君） ただいま吉田委員から、白老町内全部の小学校が対象か、または適正配置、今回の統合案に関する3校に絞って参考人として来ていただくか。

もう1点は、その統合時に絡む年代、現在であれば幼稚園、保育園のPTAの方たちは対象にするのか。2点のご意見が出されました。それも含めて皆さんからどういう形でやったほうがいいかご意見をいただければと思います。

本間委員。

○委員（本間広朗君） 本間です。今吉田委員が言われた件ですが、今回というか中学校3校統合するとき、これは中学校だけの問題ではなくて、小学校の問題、さらにはやはり保育所とか幼稚園とか、そういう低学年の人達を直接対象にするわけではないのですが、やはり声をかけていろいろお話を聞いてやったと思います。

今吉田委員が言われたようにこれは小学校だけの問題ではなくて、子供たち、もっと小さい子供、保育所、幼稚園の問題でもありますので、できるだけ本当はそういう声を聞いて進めていくと。お互いやはり納得していかないと、いろいろそういうこれから課題とかいろんなそういうことが出てくると思いますので、そういうご意見を聞きながら進めていったほうがいいのではとっております。

○委員長（小西秀延君） 小学校だけでなく、統合当時にかかわってくる幼稚園、そして保育園のPTAというのか、父母の会かもしれませんが、その方たちのご意見も聞いてはどうかということでございます。

山田副委員長。

○副委員長（山田和子君） 山田です。大変日程的に厳しいということがカレンダーを見ても認識できるのですが、今回3小学校のPTAの代表の方にもし集まっていたらいいのであれば一堂に会していただいて、そこで通学路とか、自転車通学とか、そういう具体的な事に関しての要望を私たちがお聞きするという程度に、そのぐらいに抑えて、保育園等のご意見の聴取というのは、今後、私この前も申し上げましたようにあと10年もすると1校でいくらかの人数になってきますので、そのことを含めて保育園の保護者の方とか、あるいは竹浦、虎杖浜の方と懇談を深めていく必要が今後出てくると思うので、今回のこの所管の報告が9月か10月の定例会に行うとなれば、先ほど申し上げましたように今回は社台、白老、緑丘の小学校の代表の方に集まっていたらいい、具体的な要望等をお聞きする会を一度設けるとい程度しか、カレンダーを見るとできないのではないかと思いますので。いかがでしょうか。

○委員長（小西秀延君） 山田副委員長からは、3小学校、今回は幼稚園、保育園を外して、

そこの方たちからご要望等をお聞きしたほうがいいのではないかと。統合自体のご意見というのも出てこようかとは思いますが、そのような形で行ってはどうかということでございます。

本間委員。

○委員（本間広朗君） 本間です。この日程ですが、今8月、アンケートの取りまとめまで来ているのですが、このアンケートの取りまとめで、ある程度各PTAというか、方向ということが決まってくると思っていますので、これをある程度、これができてからでないだめだとなり、今までそういう、この日程だと各学校のPTAがちゃんと話し合われたのかどうかという、アンケートはどの程度で上がってくるかちょっとわからないですけど、果たしてどこまでそういうお話をして、役員がまとめて、例えば9月定例会、所管の報告する時期までにそれが果たしてちゃんとPTAの意見としてまとまって出てくるかというのは、ちょっと疑問というか、アンケートをさらにPTAで協議してその決定ですよ。

もう10月に臨時総会ありますから、11月にもう応諾書を出すことになっているのです。これ応諾書というのはもちろん統合に賛成しますということを出すのです。ですから、本当この日程だとなかなかPTAももう足早にいかないと、なかなかそういう意見取りまとめて応諾書にサインしますという話になるのかどうか。ちょっとそれもわからないので、お話を聞くのは、それはいいと思いますけど、どの時点で。お話を聞く時点によっても話が変わってくると思いますし、果たして役員だけでお話を聞けるものか。

もしその所管の中で、本当に来ていただける、できるだけ来ていただける、役員以外の方もいろんなそういう意見を持っていると思いますので、今説明会もやっていますし、その説明会の中でもそういう話があったことも恐らくその場に出ると思いますので、必ずしもその役員の方々が取りまとめてきて、そういうお話になるのかどうかというところちょっとわからないので、できれば、やるのでしたら、たくさんの方が来て役員以外の方も来ていただいて、いろいろお話を聞いたほうがいいかと思います。

○委員長（小西秀延君） 局長。

○事務局長（岡村幸男君） 基本的に委員会へ出席できる方というのは決まっています、この委員の皆さん、それと町側の説明員もしくは参考人として定めた人に出席してもらうというのが委員会の内容ですから、多くの方、どなたでもということには基本的にはならないということをご理解いただきたいです。もしそういうことをやるということであれば、もう委員会としてではなくて、委員会は終わってしまって全く別な形で懇談をするということではいけないのです。ですから、あくまでそこは分けて考えていただきたいというふうに思います。

○委員長（小西秀延君） 山田副委員長。

○副委員長（山田和子君） 山田です。この案が発表されたのが5月31日で、保護者説明が、地区説明会が6月10日から始まって各地区で説明されたと思うのですけれども、そのところで統合自体に反対する声というのは余り聞かれなかったように認識しておりますので、統合自体をどうこうという意見は多分、恐らく出てこないだろうと思うのです。ですから、その具体的により通いやすい通学の仕方とかそういうところに保護者の方の意識が向いているのではないかとと思われるので、今もう8月ですから、約2カ月、3カ月たちますので、保護者間のその大

きな役員会というのは開かれているかどうかわかりませんが、お友達同士でああだね、こうだねという話は多分されていると思うので、それがPTA会長のほうにかなり必ずっていうか、届いているのではないかというふうに認識しているので、どなたか代表の方と、委員会で参考人として呼んでお話を聞くということではないかと思うのですけれども。いかがでしょうか。

○委員長（小西秀延君） 今まで出てきている意見の中では、とりあえずはPTAのご意見を聞いてみようという意見が皆様から出ております。まず方向性として、参考人として、どなたを呼ぶかはまた別といたしまして、参考人を呼んで意見を聞くということでは、皆様の意見は一致しているということで認識してよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） 反対ということではないようでございますので、それでは、参考人を呼んで意見を聴取するというので進めていきたいと思えます。

そこで、今意見が分かれているところでございますが、どなたを参考人としてお招きするかということになるかと思えます。現在のところは3小学校のPTAの方、それと、プラス統合時にかかわってくる幼稚園、保育園の保護者の代表の方といったことが2点程度出ておりますが、そこを絞っていきたく思えます。ご意見をお伺いしたいと思えます。

前田委員。

○委員（前田博之君） 方向性はそれでいいと思えますけど、ただ、先ほど話したけど3校の1つではなくて、白老小と緑丘小については共通認識されていると。社台はちょっと特殊、要件が違うのです。統合するか、しないかということも出てくると思うので、白老小と緑丘小は1つ、社台は別にやったほうが。ちょっと内容や方向性が違うので、一緒になってしまうと混乱を招く恐れもあるし、あくまでも緑丘小と白老小は統合に向けて行っていますけれども、社台はよくわからないのです。意見もいろいろあるというから、そういう部分で僕は分けて話した方がいいと、2つにしたほうがいいのかこう思っています。

それと、今吉田委員が話したように、幼稚園、保育園、あればその中で一緒に来てもらって話を聞くのも一つの方法だとは思えます。ただ、社台は別に聞いたほうがいいのかと思えます。

○委員長（小西秀延君） 新たにということはないですが、社台を別にしてはどうかというご意見でございます。なおかつ、統合時にかかわってくる幼稚園、保育園の保護者の代表の方にも来ていただいて、2回に分けるというご意見が出ました。ほかにお考えをお持ちの方いらっしゃいますか。

山田副委員長。

○副委員長（山田和子君） 山田です。前田委員のおっしゃることもすごく理解できて、私もそれもいいと思うのですけれども、逆に社台地区の方々にもっとこう大人数で勉強することのメリットを認識してほしいというか、そういう意味も期待を込めて3校同時にやって、それで子供が多くの人の中でのいろんな喜怒哀楽の感情を、いろんなところで学習しながら生活していくということが大切だということをおぼえてもらえるいい機会になるのではないかと思うので、そういう機会になればいいと思う意味も込めて、3校でやってはいいかと思えます。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 今言われた部分については、究極的にはそこに行くと思います。私もそういう学習上、子供の集団生活部分からいけばそれは十分わかります。それは地域の方が選ぶのです。そうですね。我々はそれを、言葉おかしいけど、それを期待して押しつけという言葉はおかしいけど、それを期待して先入観を持ってやるべきではないと思っています。

僕はだから、その保護者、地域の人たちがどちらを選択するのですかと。どういう教育を地域で持っているのですかと。それも知る必要があるのではないかと僕は思うのです。それによって地域はどうするかということで、私たちがそれを先入観というか、言葉悪いけど押しつけて、そういうものを持って当たるのではなくて、あくまでも地域がどういう考えを持っているかという白紙の状態では僕は意見を聞きたいと。地域の声を聞きたいと。それによって委員会の所管事務にも反映しなければいけないだろうし、それぞれ委員の皆さんの教育論、教育的なものの考え方を持っていると思うのです。そういうことも反映するべきであるから、僕はそういうつもりで地域を優先して、そして地域が、学校がなくなるということは中学校ではない、小学校です。小学校がなくなるという、その昔のそこで暮らしている人たちのノスタルジアというか、そういう意味ではなくて、そういう意味ではなくて、なくなるのだと。では地域はどうだと。それでも私たちは、子供たちのために統合してもらってもいいですとか、そういう意見を聞くのが我々議員、議会として必要だと思うのです。地域の発展性、地域がどういう教育を望んでいるのか。それによって我々がどうするかということを議会で議論しなければいけないと思うので、そういう部分で私は聞きたいと思っています。その上で判断すればいいかと。

○委員長（小西秀延君） 山田副委員長。

○副委員長（山田和子君） 山田です。教育論という点で言えば、お聞きするのは当然いいですけど、私の教育論としては、大人ができる限り子供にとっていい教育環境を整えてあげということ、それが私たちの責任だと思います。という観点から考えれば、どうしても僻地で小人数しかなくて複式学級になるのであれば、それはその範囲の中でできる限りの教育をしていくのがその地域の責任であるけれども、統合すれば2クラスができて大人数で学習できる環境にできるのであれば、私は統合するべきだと思っていますので、それは私の先入観とかということではなくて、私の教育論として、社台地区の方を説得してというかご理解いただいて、子供たちをよりよい環境の中で育てて、白老の教育の確立をしていきませんかという投げかけをしていきたいと思っています。

○委員長（小西秀延君） 済みません。前田委員から意見を出されて、分けて2回にしてはどうかということで今議論が進んできております。この2回に分けるということですが、意見が言いづらくなるというような配慮を前田委員がしているというふうに私は捉えておりますが、そこでですが、1回でやると、皆さんの考え方として、この統合論に反対する方も中にはいるかもしれません。そのときに、一堂に会している場では意見が言いづらいのではないかと。その配慮が必要かどうかを議論したほうがよろしいのではないかとしますので、その観点でご意見を承ればと思います。

山田副委員長。

○副委員長（山田和子君） 齋藤委員がきょう欠席ですけれども、おそらく齋藤委員のほうから社台、各地域に学校をとという観点からのお話がされると思うので、そういう後押しがあれば、そのそういうふうに思っていられしゃる方もご意見を出しやすい環境にはなるのではないかと予想されますけれども、いかがでしょうか。おそらくですけど。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） きょう欠席の委員の話をしてもちよっと困るのですけれども、済みません。今ここにいる委員がやらなければならないことだというふうに思いますので、私はいろんな状況を考えて、子供の将来、それから、地域の状況、その思い、そういったことをお伺いする参考人ですので、私はこの3校が一緒になってやるということは、否定的な意見を強い人が出してしまうと言えなくなってしまうということが出てくるのではないかと。それは地域のエゴだと言われてしまうと出てこれなくなってしまうと思う。次の言葉が。私はやっぱりその地域の思いをどう議会がくみ取るかだと思います。だから社台はやっぱり、こちらと違ってスクールバスで通わなければならないという大きなハンデもあります。もちろん教育の中でいけば大勢でやるということは、私は大事なことだと。学力的にも、それから、成長する段階での子供の数、競争心だとかいろんな面でのことでは必要だと思いますけれども、私もどちらかというところと各地域に1校ほしいというふうに思っていましたので、社台がここで急にこの間の説明でぼんと出てきたときにちょっと意外性もありました。社台は保育所もなくなっています。社台の地域の人たちのいろんな思いというものをいろんなところで私も聞いていますので、そういったことを考えるとどうしてもその立場が違うと思うのです。出てくる人たちの。受け入れる側、こっち側は白老だということと、社台と全然環境も、それからその後の方向性も全部変わってくるのだと思うのです。そういうふうに考えると、私はやっぱり別がいいと思います。本当にそのいろんな思いをその場で、とめられることなく自分たちの思いを議会に話したいという場をやっぱり私はつくるべきだなと。できれば私は3校別のほうがいいと思っています。3校やるのであれば、竹浦、虎杖浜はやらないのであれば、3日間で済むのであれば、私は白老小と緑丘小の思いも違うと思うのです。受けとめる。だからそういった部分でいけば、全部そういうふうになったときに立場が違うわけですから、だから私は別のほうがいいと思っています。ただ、時間的にとれないのであれば、社台は別のほうがいいというふうに思っています。

○委員長（小西秀延君） 山田副委員長。

○副委員長（山田和子君） お一人お一人の思いというのはそれぞれ違うというふうに認識しております。それを一人一人聞くのは大切なことかもしれませんが、私は議員として白老町の教育を考えたときに、やはりこの統合には賛成ですし、前回も申し上げましたように全地域で1校になるぐらいのスピードで適正配置を進めていってもいいのではないかと思っているほうなので、一人一人の思いは十分、地域の思いも私も理解していますし、地域がさびしくなるということも理解できていますけれども、子供のことを本当に考えたらどういう教育環境がいいのかということを実際に考えてみたら、強く言うというかそういうことではなくて、発展的な議論ができるのではないかと思います。3校であっても、3校同時であってもできると私は思います。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員。

○委員（吉田和子君） 一人一人に意見を聞くというふうには言っていません。参考人は代表が出るわけですから。だから一人一人の意見ではなくて、代表して来るのだと思うのです。その方たちが。ですからいろんなアンケート調査と、それから自分たちのPTAの中で学校の中のことを話し合っ、そしてその代表として議会にきちっと言いたい意見を持ってくるのだと思うのです。ただ、時間的に1時間半とか2時間で、やっぱりその意見をきちっと酌み取って上げられるかどうかということも考えたときに、日程がないなんていうのは議会の都合です。どちらかと言うと。私たちはやっぱりきちっと1校1校の思いを本当だったら聞くべきだと思います。そういうふうには私は思っていますので、その意見がつぶされるとか、もちろんさっき声大きい人がと言いましたけれども、やっぱりそれぞれの思いを自分たちが十分に話をできる、そういう話のできる場づくりが必要ではないかというふうには私は思います。

山田副委員長が言う、将来的に1校になるとかということわかります。だけど今そういう議論をしていたら参考人いなくなります。だってもう統合ということが見えて、適正配置やるということが前提で、そうしないとならないというのであれば、参考人の意見聞かないで教育委員会と議会が賛成するかしないかということになってしまいます。そういうふうになれば。

だからそうではなくて、そういういろんな思いを聞いた中で議会としてどう判断して、どういうことに配慮したらいいのか、どういった面をもっていったらいいのか。教育論になっていったら、それはもうどんどんみんなの思いがありますから、個々にみんな違うでしょうし、それを今議論する場ではなくて、参考人というのはその地域の思い、その学校に今いる人達が統合されて学校がなくなるということに対しての思い、それから心配事、いろんなことを聞く場だと私は思っていますので、そういうことであれば各学校のほうが良いというふうには私は思っています。

○委員長（小西秀延君） 意見が大分分かれておりますので、ほかの方からもこれについてのご意見をいただきたいと思ひます。前田委員からは、前から別々にやったほうが良いというご意見をいただいておりますので、本間委員はどのようにお考えになりますか。

本間委員。

○委員（本間広朗君） 本間です。今前田委員から社台は別にしたほうが良いと聞いたとき、僕は、吉田委員が言ったように、それでしたら3校別々に意見を聞いたほうが良いのではないかと思ったのです。

今山田副委員長がおっしゃるのは、後々それはもちろん同時進行でやらなければ、考え方は教育委員会の考え方を住民、地域の方はPTAに伝えていかなければならないのですが、やはり今地域の意見、PTAの意見、本当にどういうことを思っているのかということには議会のほうで押さえておかないと、やはり後々本当にまた意見が違って、教育委員会の考え方とか山田副委員長の考え方も多分同じような意見だと思いますので、それは大変崇高なご意見でいいと思ひますけど、本当に細かいところまでお話ができるかどうかかわからないですけど、やはり地域によって考え方というは違うのです。前田委員も言われたように本当に社台から学校、本当に保育所も小学校も何もなくなったら、疲弊して、そういういろんなことが、いろんな面でそ

ういう施設がなくなったら、やはり疲弊するのではないかという心配があると思います。だから、その前に町がそういう政策をとっていただいている、対策をとっていただければいいと思うのですが、そういうことは多分なかなか無理だと思いますので、できるだけ私は今言われたように参考人から地域のそういう意見を聞いていったほうが、まず聞いていったほうがいいと思います。それが3校別々になるか、2校になるのかはちょっとあれですけど、できるだけ私は3校別々に聞ければいいと先ほど思ったわけです。

○委員長（小西秀延君） 山田副委員長。

○副委員長（山田和子君） 山田です。アンケートを取った上で代表の方が参考人としてお見えになるということが前提、アンケートを取っている、一人一人の声をアンケートで聞いているということが前提ですので、それで地域の思いはそれぞれの地域の代表の人がほかの地域の人にも話を聞いてもらえるいい機会になると思うので、やっぱり私は3校同時にやって、それで、時間がないというのは理由になりませんから、そこで何か白熱した議論になればまた別な機会を設けて、もう一度3校で集まってもいいと思いますので、そのようにやったほうが各地区というよりは、みんながいろんな意見を聞くということがとても大事なことだと思うのです。だからそのようにやったほうがいいのではないかと思うのですけれどもいかがでしょうか。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 私は、別々という考え。なぜかと言うと経験上もそうだし、かなり中学校の3校統廃合のときは、現実に私が議員になってから地域の説明会を聞きに行きました。竹浦の人方と虎杖浜の人方、萩野は自分のところに来るから別ですけれども、それぞれ考え方違うのです。虎杖浜に議会で行ったら、そのときに教育委員会に言うことと議会に言うこと違うのです。教育委員会に対して説明を受けて、ある程度説明、具体的なことは本間委員知っているから余り言わなくてもいいと思うけど、教育委員会が教育長行って、当時の説明している話と議会が行って聞いた声にかなり違いがあるのです。やっぱり統合してほしい側と意見聞く側では大分違うのです。そういう部分もあるし、山田副委員長も経験したと思いますけど、私学校教育課にいたときに、今はそうでもないけど、ちらっとこの前も話したけど、線路から向こう行くと非常にお母さん方の考え違っているのです。

だから、僕はやっぱり、我々としては地域の意見、どういう考えあるか。議会として白紙の中で聞くという部分が大事だと私は思うのです。3校になるとさっき吉田委員みたいに方向性違ってしまう可能性多分にあるのです。小さな声はやっぱりつぶされる可能性ありますから、そうではなくて、やっぱりそれからどう考えるか。もし山田副委員長がそういう考えであれば、懇談会開いたときに自分の意見を言ってもいいと思うけれども、開陳してもいいと思うけど、その前にまずそういう聞く機会は議会としてつくってあげるべきだと僕は思います。やっぱり大分違う、我々選んだ代表が声を聞いてくれるのと、行政側が行って説明して声聞くのとは大分意見の違いが出てくる。それをどう調整でなくて、最終的には、僕は意見聞いたからそれに迎合しろという意味ではないですから、方向としては、議会として意見はそれぞれあるからそれは付記すればいいけど、方向性どうだろうかということをお互いに議論すればいいけど、その前段として、町民の声、関係者の声を聞くということは議会としては大事だと。開かれた

議会という意味からも。3校でもいいのだけど、今のこの案件から見れば個々に聞いたほうが
いいと僕は思います。

○委員長（小西秀延君） 山本議長、ご意見があれば。

○議長（山本浩平君） 意見が分かれていますので、私はどちらがいいとはなかなか言いづら
いところもありますし、それぞれの考え方や気持ちというのはよくよく理解できますので答え
にならないですけれども。私の考えとしては、やっぱりPTAの代表する方々が、そこに一堂
に会して議会としてそこで意見を聞くということで十分ではないかというふうに個人的にはそ
ういうふうに思いますが、これは意見分かれていますので、皆さんで決めていただければと思
います。仮に3校別々にやるとしても、ちょっと時間がかかるかもしれませんが、同じ
日にやるということもできますよね。時間ずらして何時から何時までというふうに。白老小学
校何時から来てください、緑丘小何時からです。とそういうことができますよね。何も3日間、
4日間とる必要はないのではないかという。僕はどちらかという会議の日数を減らして皆さ
んがやりやすいようにというのが考え方でございますので、その辺をうまくいろいろ考えてや
っていただければと思います。

以上であります。

○委員長（小西秀延君） ある程度皆様からご意見をいただきました。参考人を呼んでご意見
をいただくというところでは、皆さん意見が一致しておりますので、それはやるという方向で
進めたいと思います。

ただ、3校一堂に会してやるか、または1校ずつやるかという、できれば1校ずつやったほ
うがいいというところから、白老小、緑丘小は一緒にやったほうがいいというところで分かれ
ていると思いますので、基本的には別々にやったほうがいいというご意見かと捉えております。
ご意見ずっと聞いていても平行線になると思いますので、スケジュール的に、これはスケジュ
ールも関係してきます。今議長からご意見をいただきましたが、1日でできる可能性もなくは
ないと思います。ただ、PTAのお母さんたちも、お父さんもそうですけど、仕事を日中して
おりますので、PTAの役員会も結構夜やられていることが多いということが一般論でござい
ますので、やるとすれば3日間になる可能性のほうがちょっと高いと思っております。それで、
もしスケジュールの都合がつくのであれば、私と事務局に任せていただいて、可能であれば3
カ所で赴いてやると。学校等をお借りできればそういう形で、できなければこちらで場所を用
意してという形をとりたいと思います。ただ、タイムリミットも限られておりますので、それ
が現実論として時間的に無理であったという判断を私がした場合には、一堂に会してでもやは
りやったほうがいいだろうということで、各代表者がおりますのでなるべく意見を出しやすい
環境を整えて一堂に会してやるというような方向で進めたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） よろしいでしょうか。スケジュールが3校別々に進んでいくという
やり方で取れない場合には、そのような形も考えていただきたい。そのような形をとらざるを
得ないと判断をしたときには、一堂に会してやりたいと。ただしその場合にも皆さん意見を出
しやすいような環境づくりを考えながら進行していきたいと思っております。そのような形でいかが

ですか。ご意見があればお伺いしたいと思います。

前田委員。

○委員（前田博之君） できれば、時間は別にしても、最低でもやっぱり白老小と緑丘小は時間なければ1つでもいいけど、社台だけはやっぱりできれば許される限りは別で優先してほしいと思います。条件が違うからどうも会うということになると。そういうことです。そして、社台は地域の議員さんもないから。

○委員長（小西秀延君） ご意見として承りたいと思います。できればそのような方向で。

吉田委員。

○委員（吉田和子君） もう1点、今伺ってというお話でしたので、私は最初ここに来ていただいてお話を聞くのかと思っておりましたので、伺ってお話を聞くということで、本間委員はPTAの役員をされていたので、虎杖浜、白老小だとか全部見ていると思いますけど、学校をきちんと見るということも一つ大きな、議員がきちっと学校の状況を把握しておくということも一つ効果があると思いましたので、各学校できれば15分くらい早く行って学校の状況を見ると。そういうことも含めてできるのではないかというふうに思っていますので、都合がつかなければしょうがないですけども、都合がつけば学校の状況も見せていただいて、その上で皆さんの意見を聞き、そしてその辺でまた判断するというか、そのことを参考にしながら話を進めていけるというふうに思っていますので、そういったこともちょっと考慮していただければというふうに思います。

○委員長（小西秀延君） なるべくその場所で会議ができればという思いで私もそのように述べさせていただきました。ただ、都合もあるでしょうから、かなわない場合にはこちらで場所を用意するというご承諾を得られればというふうに思います。

先方も3カ所ありますので、時間的なものもありますけど、事務局に大変御苦勞をかけるかと思えますけど、それで調整したいと思いますよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり。〕

○委員長（小西秀延君） それでは、参考人を確認いたします。できれば3回に分けて、できなければ2回、また、一堂に会してという方法で進めさせていただきます。

参考人の該当者ですが、白老小、緑丘小、社台小学校のPTA、そして、プラス幼稚園、保育園の保護者代表の方へお声をかけさせていただくと。この場合どうしても相手のあることですので、お声をかけさせていただきますが、出られない場合もあろうかと思えます。該当者にはそのようにお声かけをしたいと思えますがよろしいでしょうか。PTAです。保育所、幼稚園の保護者の方の代表者、PTAではないところもありますよね。保護者の会というところもあろうかと思えますので、その両方の代表者の方たちにお声をおかけするという形で進めたいと思えます。よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） 山田副委員長。

○副委員長（山田和子君） 前田委員に質問というか、社台地区の地域の方は入れなくてもいいのでしょうか。

○委員長（小西秀延君） 前田委員。

○委員（前田博之君） 非常にデリケートなのです。地域の人を入れると本当にその子供たちの現状に置かれている将来、現状の子供たちの学習環境、それに対してどうかという議論は案外出てこないのです。もう終わっているから。そして、その地域のシンボルは学校だという発想に行ってしまう可能性ありますから。私は、そこは別な形の中で議論すべき問題だと思っていますので入れなくていいのではないかと僕はそう思う。あくまでも教育という配慮の観点からということであれば、今関心、その渦中にいる保護者の方々ということでもいいのかなと私は思っているのです。否定はしないですけど、必要だけど、それは別な部署でやるべきだと僕は思うのですけど。どうでしょうか。

○委員長（小西秀延君） それは私も、それだと白老小も、緑丘小も地域の方というのがありますので、また教育というテーマから外れる可能性も出てこようかと思えますので、今回は教育関係の保護者の代表の方という形をとりたいと思えますがよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） それでは、そのように手配したいと思えます。

3番になりますが、適正配置計画（案）についてでございます。このテーマにつきましては、参考人の聴取を終わってからのほうが、継続審議としておきまして、次回皆さんにお集まりいただく委員会に持ち越したほうがよろしいかと思っておりますが、この件に関しましてもご意見をいただきたいと思えます。

吉田委員。

○委員（吉田和子君） 適正配置は教育委員会から示されておりますけれども、議会として結論を出すということになるとちょっと違ってくると思えます。どのような方向性で持っていくべきか、それから、やっぱり地域の問題はどうかということをきちっと議論しながら、それを教育委員会にきちっと物申していくという形になるのではないかというふうに考えますので、そうであればやっぱり参考人の話を聞いて、アンケートの結果をきちっと見た上で私たちは判断していきたいというふうに。

いろんな、適正配置には個々にいろんな思いがあって、教育にもいろんな思いがありますので、そういった部分での議論も大事だと思いますし、また今後その地域の声、それから今現在、子供たちを育てているPTAの方々、お母さん方、お父さん方の考え方をきちっと集約したものを見た上で判断をしていくような議論をしたほうがいいというふうに考えます。

○委員長（小西秀延君） 吉田委員からそのようなご意見が出ましたが、そのような進め方でよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） 岡村局長。

○事務局長（岡村幸男君） 確認です。まず参考人の招致ということになるのですけれども、これは日程を調整させていただきますが、基本的にこれは夜という方向で調整させていただくことはいかがでしょうか。

決めつけるのではなくて、委員さんの都合が当然あると思えますので初めから夜ということ

ではないですけれども、そういう場合も想定しておかないと、夜だと困るということだと困るので、そこはご理解いただきたいと思っているのです。そういう意味です。

○委員長（小西秀延君） 前提としては、日中はいかがでしょうかと先に聞いていただいて、夜のほうが、夜にやっていただきたいということであれば夜に設定をします。ただ、なかなか時間調整も難しいところがありますので私にお任せをいただければと思いますが、お集まりいただける人数もなかなか今委員会も小人数になっていますので、集まらないと開催できないということも考えられますので、なるべく奮ってのご参加をお願いしたいと思います。

岡村局長。

○事務局長（岡村幸男君） あと何点か確認があるのですが、PTAの役員ということですが、これは正副会長だとか三役、そういうレベルというご理解でよろしいでしょうか。

○委員長（小西秀延君） 役員会、運営委員会は三役の下に位置するものですので、三役会が一番把握していると思いますので、三役の方でよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） 岡村局長。

○事務局長（岡村幸男君） もう1点ございます。済みません。今私が教育委員会に確認している内容では、冒頭委員長のほうからアンケートの集計状況のお話をされたと思うのですが、夏休み明けにPTAの役員に集計内容をきちんと説明する予定になっているそうです。その後に当然PTAのほうでその内容に基づいた協議が行われるということになると、夏休み明け、そして協議を持つ、その後に参考人として来ていただけるというようなスケジュールになると。調整はいたしますけれども、8月の後半もしくは9月に入ることが想定されるのですが、その辺はいかがでしょうか。

○委員長（小西秀延君） 先ほどもちょっと私のほうからご説明しましたが、タイムスケジュール的にこれはどうすり合わせても無理であるとなれば、途中で一堂に会すまたは白老小、緑丘小と一緒に、社台小が別にとというような形で、それは事務局と私にお任せいただければ、最初は調整してみますが、先ほどから申し上げているとおりタイムリミットもありますので、なかなかむずかしい一面もあるということをご理解いただいて、私どもで調整させていただいてよろしいですか。

3校別にすると、もう9月の中旬になってしまうというようなスケジュールだと、もうまとめる時間も、皆さんからご意見いただくとなると9月の後半という話になりますので、これちょっと不可能になってきます。そのような場合は流動的にお任せいただくという形で進めたいのですが、そこを確認しております。よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） ご承認いただいたということで進めさせていただきたいと思います。

事務局ちょっと大変ですが、よろしく願いいたします。ほかに確認事項ございますか。

岡村局長。

○事務局長（岡村幸男君） 今のところ、参考人の日程調整のほうをまず優先して進めます。

○委員長（小西秀延君） よろしく願いいたします。

きょうは以上3点ですが、ほかにお話をしておいたほうがよろしいこと等をお持ちの方いらっしゃいますか。

前田委員。

○委員（前田博之君） 直接かからないですけども、インフラの関係です。前回学校の耐震化率の意見出て、このとき77%と言っているのです。耐震化率。きょうの道新を見たら全国調査したら60%台です。そうすると、あのコメントもちょっと我々委員会で説明しているのと違っているのです。そこら辺の確認だけ次回、多分委員会来ると思いますが、その整理だけちゃんとしておいてほしいと思います。本当にどれが正しいのかということ。議会でもいろいろ質問しているけれども、その都度率変わっていくのです。当然年によって変わるのだけど、これが新聞報道見ると全然違うのです。かなり離れているのです。きょうの新聞に出ているから、直近で調べているのではない。年度ではなくて。あくまでも新聞報道と。タイムラグあれば別ですけども、文科省の調査があったけれどもこうだよと委員会で説明されていなかったのでその辺わかりませんが、あくまでも新聞報道でいけば60何%で結構下の方ですので、前回公に委員会では77%と言っているのです。この辺の部分のもしその調査時点が違ってアップしていれば別だけど、それも含めてちょっと整理してほしいと思います。

○委員長（小西秀延君） それはタイムラグ等も確認しなければわからないので、町からまた改めて説明をしていただくことといたします。

ほかございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎閉会の宣告

○委員長（小西秀延君） それでは、以上をもちまして総務文教常任委員会を閉会いたします。

（午前10時59分）